

PFD(Process Flow Diagram) の基本

目次

- PFDの成り立ち
- PFDとは
- PFDを使う効果
- PFDの基本
- XDDP実現のためのPFD

PFDの成り立ち

当時からDFDを使ってプロセスを表現していた清水氏

その手法でプロセスを表現していたのは自分だけではないことを知った

- ① 『システム設計の構造化手法』（Brian.Dickenson 著、黒田、渡部共訳、日経 BP 社）という本が、全ページ丸ごと DFD でプロジェクトのプロセスが書かれていた。
- ② BPR（Business Process Reengineering）」という本が翻訳出版されましたが、これも丸ごと DFD であり DFD を使って「現状分析」を行い、無駄な作業を省いたり統合したりして新しいプロセスを提案していた。
- ③ CMM Ver1.1 で、「組織標準→テーリング→プロジェクト標準→ガントチャート」と展開する様子を図で表していますが、そこで組織標準やプロジェクト標準として表現されている「プロセス」は DFDであった。

但し、DFDでプロセスを表現するときに使いづらい部分があるため改良したい

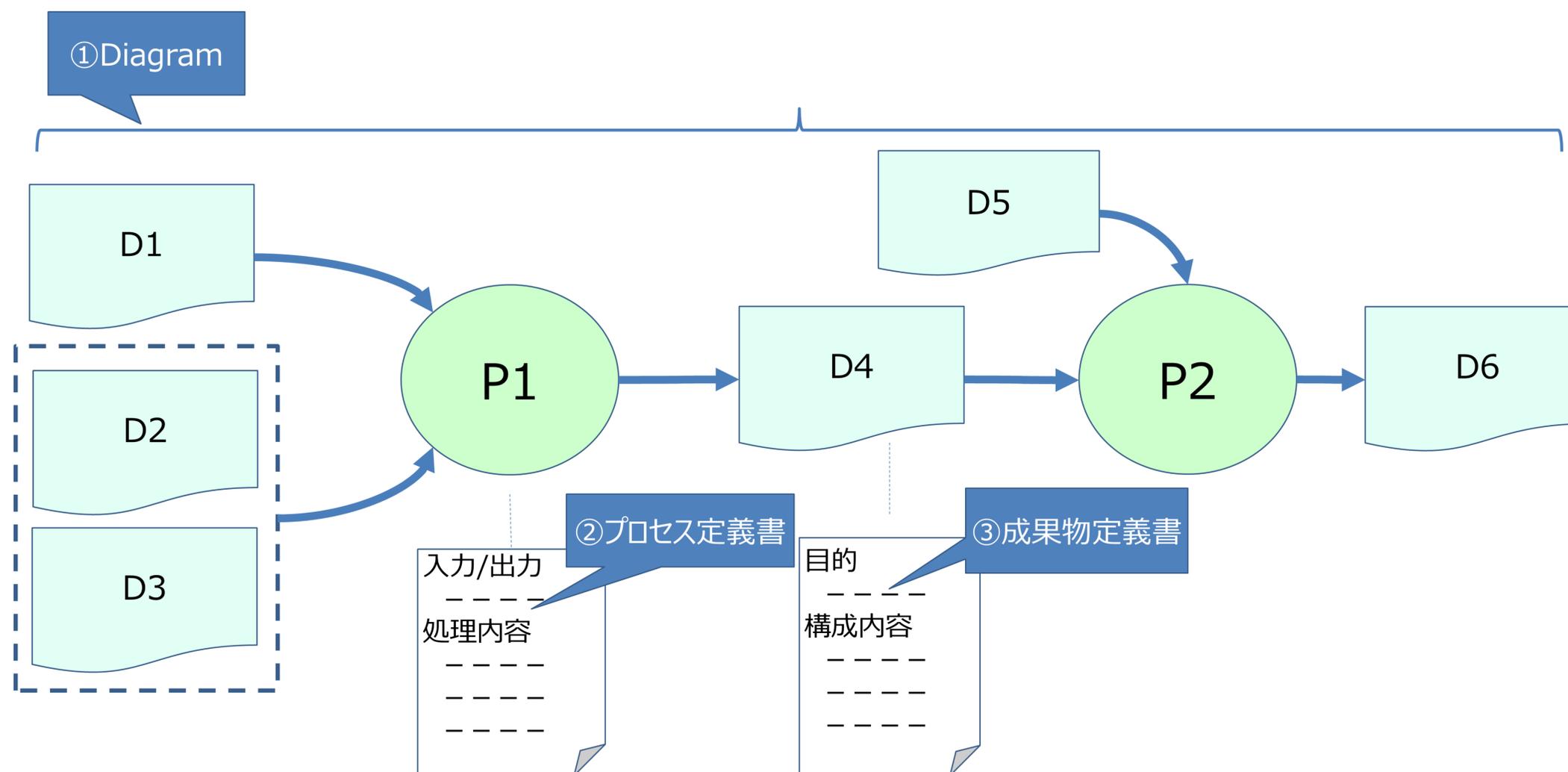
- ・ストア記号とフロー上のデータが混在し、**成果物が見えにくい**
- ・覚えるルールが多いため習得が難しい



プロセスを介した成果物の連鎖を明確に表現する方法(PFD)を考案

PFDDとは

システムクリエイツ清水吉男氏がDFDを参考にプロセス設計に特化した表現記法を考案
PFDD = (①Diagram ②プロセス定義書 ③成果物定義書) の3点セットで
 プロセス実行に必要な情報を定義し、設計できる技術である。



プロセスには入力成果物・出力成果物が必ず存在する

PFDDを使う効果

- プロセスを自身で設計できる
 - 成果物から考えることで最も効率的なプロセスを自身で設計できる。
- プロセスの見える化で現状の問題点を皆で把握し、より最善なプロセスを皆で検討できる
 - 関係者間で思い違いをなくすることができる
 - ムダな作業・資料を発見できる
 - 人に仕事をお願いしやすくなる
- プロセス実行前に事前検討できる
 - 事前に検討するから失敗しない
 - 事前検討できてるので状況に応じて後からプロセスを柔軟に変化させていける

PFDの基本①

実施する順番にプロセスを考えてしまうことが多いですが、

最終成果物（ゴール）から考えて

成果物を構成する要素を分解し、中間成果物間のプロセスを検討すると効率的

ステップ1：
最終成果物を中間成果物に分解

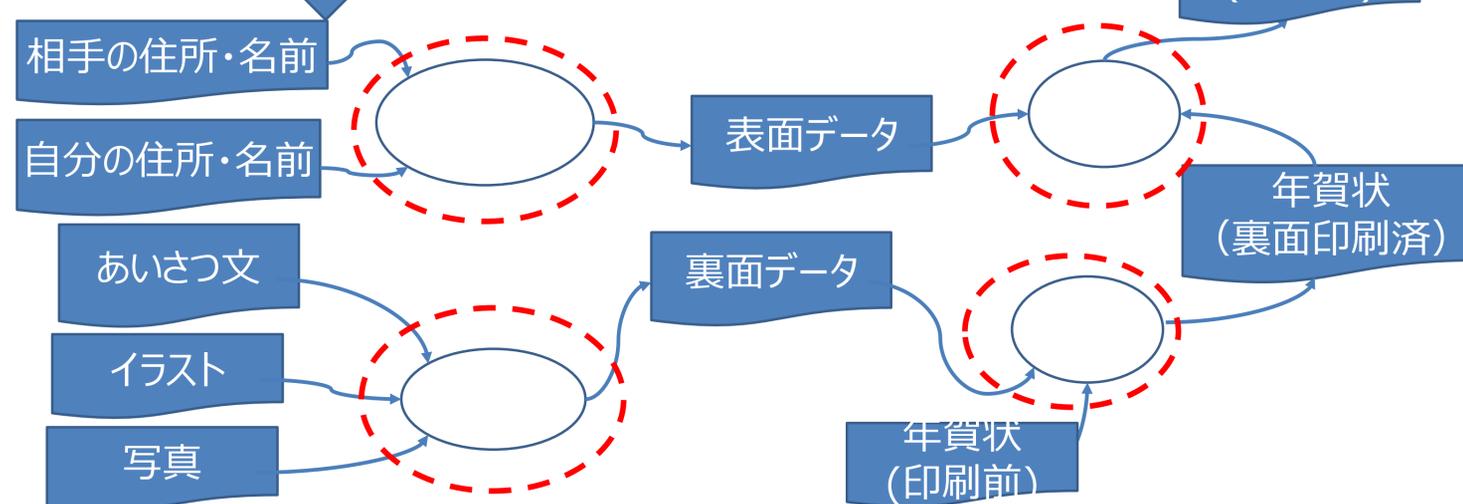
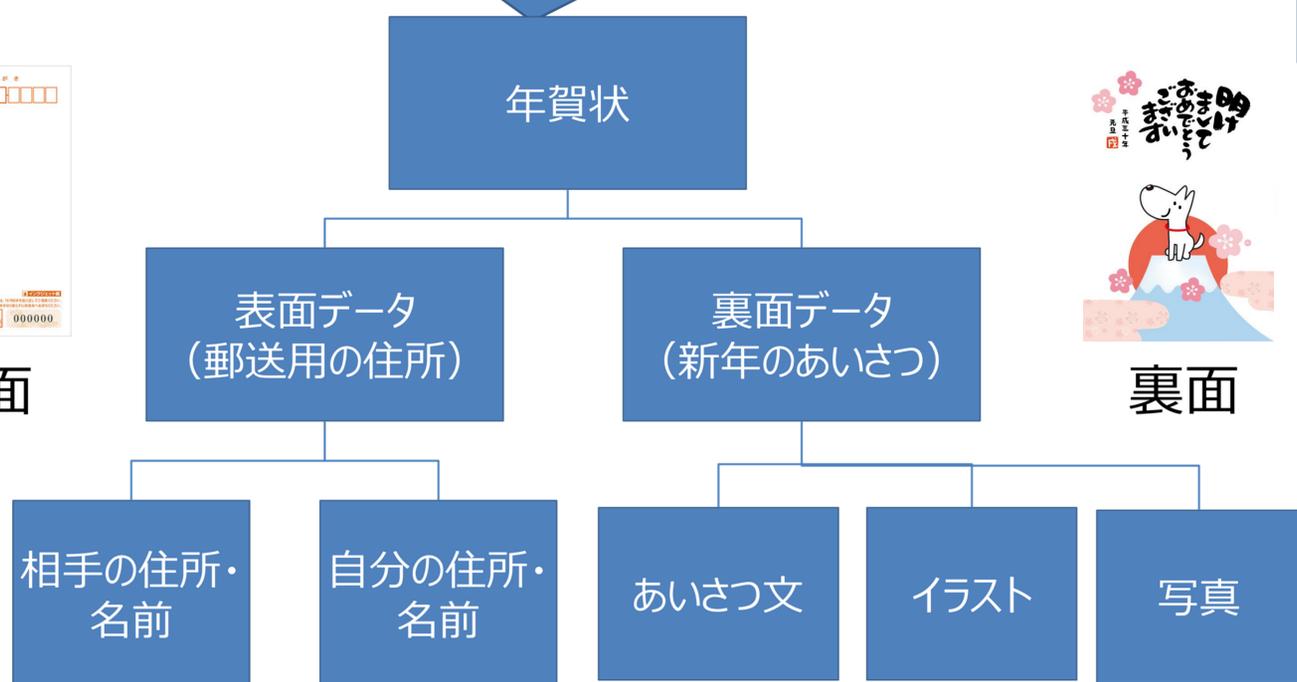
ステップ2：
成果物構成を90°回転し、中間成果物
物の間のプロセスを検討していく



表面



裏面

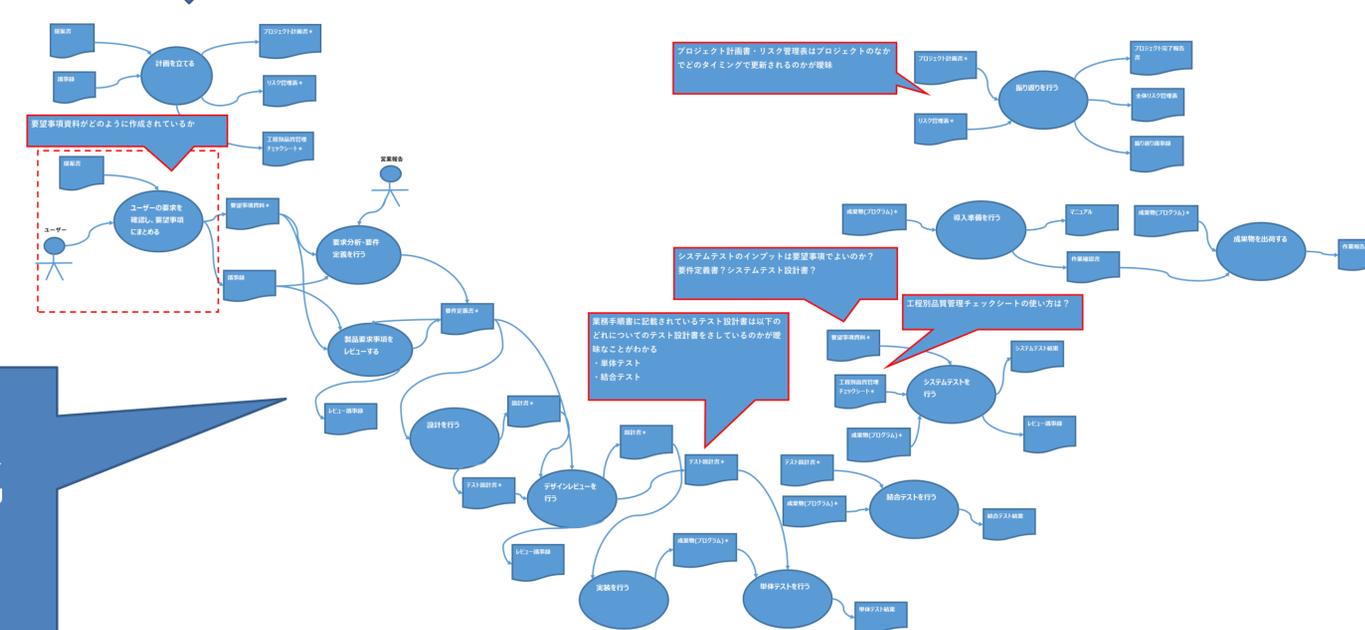


PFDの基本②

組織で定義されている業務手順書等をPFDで見える化すると
成果物の入力漏れや表現されていないプロセスが潜んでいることに気づき、
 改善の議論ができる

業務手順書		〇〇事業部	
工程	定義	INPUT	OUTPUT
計画	開発の範囲及び方針を決定する。また、リスクの洗い出しを行う。	提案書 議事録	プロジェクト計画書 リスク管理表 工程別品質管理チェックシート
要求分析・要件定義	ユーザの要求事項を明確に定義する。	要望事項資料 議事録 営業報告	要件定義書
製品要求事項のレビュー	要求事項の問題点を明確にし、必要な処置を行う。(要求事項の可能性、システムの実現性)	要望事項資料 議事録 要件定義書	要件定義書 レビュー議事録
設計	要件を実現する成果物の設計をする。	要件定義書	設計書

ダイアグラムで繋がりを見える化することで
 インプットの漏れや成果物・プロセスの曖昧さ
 が見えるようになり改善の議論が行える！



複雑になった場合は階層化
 表現を行うことも可能

PFDDの基本③

- 新規開発では
 - 事前に机上検討して妥当性を確認し、手戻りを防止する
 - 必要な技術要素の洗い出す（プロセス定義書の必要スキル検討）
- 派生開発では
 - 今回の変更点は何かを中心に成果物・プロセスを見直す
 - 変更点による成果物、プロセスへの影響範囲を確認する
- 業務改善では
 - 現在の仕事の非効率部分を見えるようにする
 - 下記の観点で改善を検討する
 - ⇒ヤメル（目的から考えて本当に必要かを見極める）
 - ⇒ヘラス・カエル（工数に見合った効果か？条件改善、方法改善）
 - ⇒ウツス（権限委譲と外部活用）

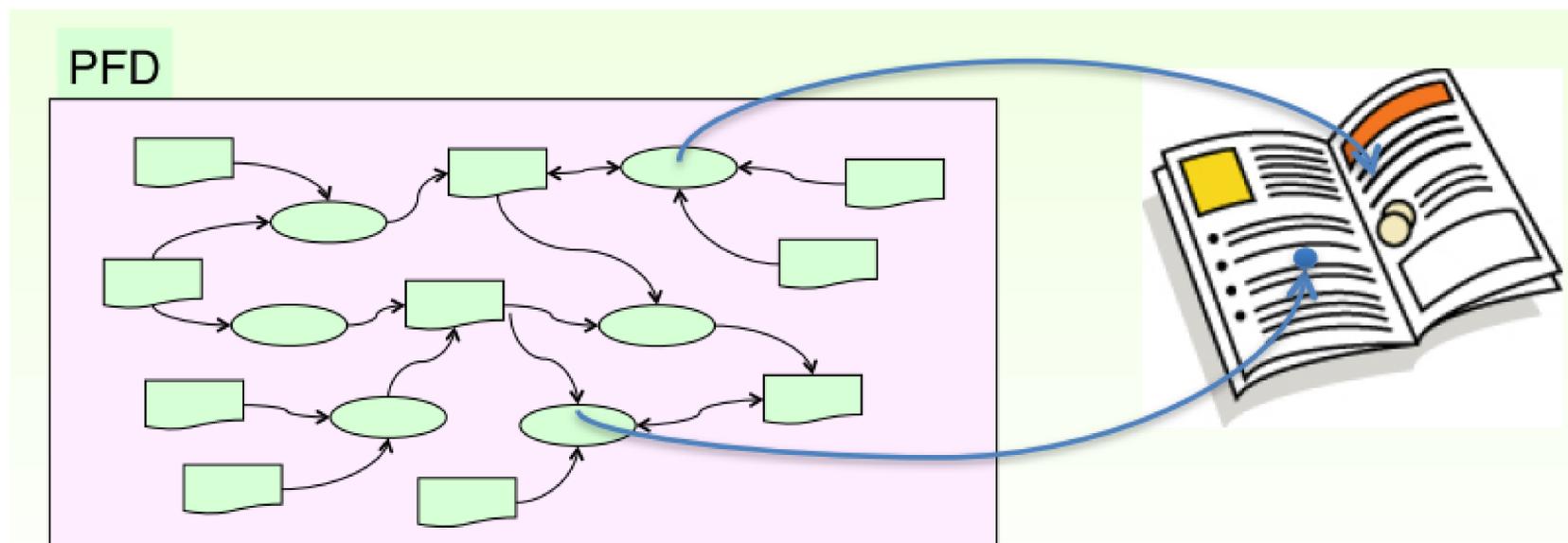
XDDP実現のためのPFD

PFDで下記の技術を手に入れる！

- プロセスを自身で設計できる
- プロセスの見える化でより最善なプロセスを皆で検討できる
- プロセス実行前に事前検討できる

更にXDDP実現のためにプロセスを自在に設計する技術(PFD)を活用する！

- 変更・機能追加に最適なプロセスを考え設計できる
- 短納期でも対応できる無駄のない最小限の成果物で構成するプロセスを設計できる



END